

DPCと医療マネジメント

産業医科大学
医学部 公衆衛生学教室
松田晋哉

利益相反 (COI)
発表者名 松田晋哉

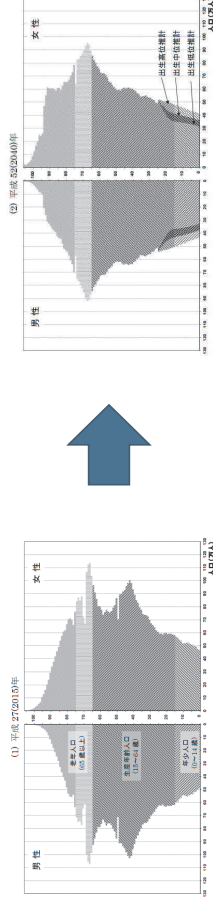
講演発表に関連し、

開示すべきCOI関係にある企業・団体などはありません。

2

2040年問題とは？

- 2025年から2040年という僅か15年間に於いて、現役人口（20歳～64歳）が約1,000万人も減少するという問題
- その結果、世代間の所得移転を基本とする我が国の社会保障制度の持続可能性が問題となる
 - 生産年齢人口が急速に減少するにもかかわらず、75歳以上人口は2050年台半ばまで増加を続ける



医療機関は社会的共通資本

- 医療機関が地域からなくなれば、確実に地域の安心・安全のレベルは低下する→医療機関は存続し続けることを求められる
- 存続し続けるための経営（=やりくり）が必要
- そのためには2つの方法しかない
 - 地域のニーズにこたえる
 - 地域にニーズをつくる

4

医療機関は社会的共通資本

- 医療機関が地域からなくなれば、確実に地域の安心・安全のレベルは低下する→医療機関は存続し続けることを求められる
- 存続し続けるための経営（=やりくり）が必要
- そのためには2つの方法しかない
 - **地域のニーズにこたえる**
 - 地域にニーズをつくる

5

これから2040年までに起こる主な環境変化

- 少子高齢化のさらなる進行（地域差も大きい）
- 複合ニーズをもった高齢患者の増加→療養病床の相対的不足
- それを財政面・人的資源面で支える現役世代の減少

- サービス提供側の複合体化が不可欠（生産性の増強）→地域によって在り方は異なる
 - 医療介護サービス提供者のM&Aが進む
 - 総合性のあるサービス提供（総合医、特定看護師、ソーシャルワーカーの役割が重要になる）
 - 広義の在宅でのケア提供ニーズの増大
 - ICTの活用が必須→ただし、標準化が不可欠

健康危機管理への対応

- 今回のCOVID-19対応を踏まえた医療政策の検討

- サービス提供側の機能分化と連携体制の確立が不可欠
 - 各地域で複合体化あるいはアライアンスが進む→標準フォーマットのICTの活用が不可欠
 - 急性期病院の絞り込みと当該施設の人的資源・物的資源の増強
 - 医師の働き方改革との整合性・大学病院の在り方の検討
 - 在宅復帰や在宅医療を支える地域包括ケア病棟の役割の重要性の再評価

7

地域ではどのようなニーズの変化が生じているのか？

それを考えるためのデータは施設の内外に豊富にある。しかし、十分に使われていない。

6

現実的・客観的に考えることの重要性

- 現在は、傷病構造の大きな転換期にある。近視眼的な対応は、誤った施策や経営につながる可能性がある。新型コロナウイルス感染症の流行は根底にある問題を顕在化させた。
- 原理主義は危ない（社会民主主義vs新自由主義のような2分論ではうまくいかない）。
- 感情的議論は危ない→臨機応変な修正が難しくなる
- 欧米の経験は、改革の指針を示したうえで、漸進主義的に改革を進めることの必要性を示している。
- データ分析の結果や環境的な制約条件（社会的なものも含む）を踏まえて現実的な医療介護提供体制を考えることを求めている。
- そのための情報環境は相当程度に整備されている（しかし、十分活用されていない）。

8

高齢者脳梗塞、股関節骨折、心不全、肺炎の急性期病院入院症例における入院前後のサービス利用状況

(西日本の一自治体データ： 2014年10月～2016年3月 DPC対象病院入院症例)

	入院6か月前		一般病床入院1か月後					
	介護保険 陰利用	介護施設 設入所	一般病 床	回復期 病床	療養病 床	介護保 陰利用	介護施設 設入所	累積死 亡
脳梗塞 (1,734名)	32.5%	5.4%	68.7%	21.9%	1.8%	19.4%	5.4%	1.1%
股関節骨折 (1,493名)	54.5%	5.8%	78.4%	37.6%	3.7%	24.0%	7.5%	0.1%
心不全 (1,192名)	45.0%	6.9%	70.1%	0.5%	3.0%	33.6%	6.8%	3.3%
一般肺炎 (1,798名)	47.3%	7.6%	56.1%	0.8%	3.4%	38.6%	7.5%	2.9%
誤嚥性肺炎 (1,585名)	73.4%	21.5%	66.9%	0.9%	5.9%	45.3%	17.4%	5.0%

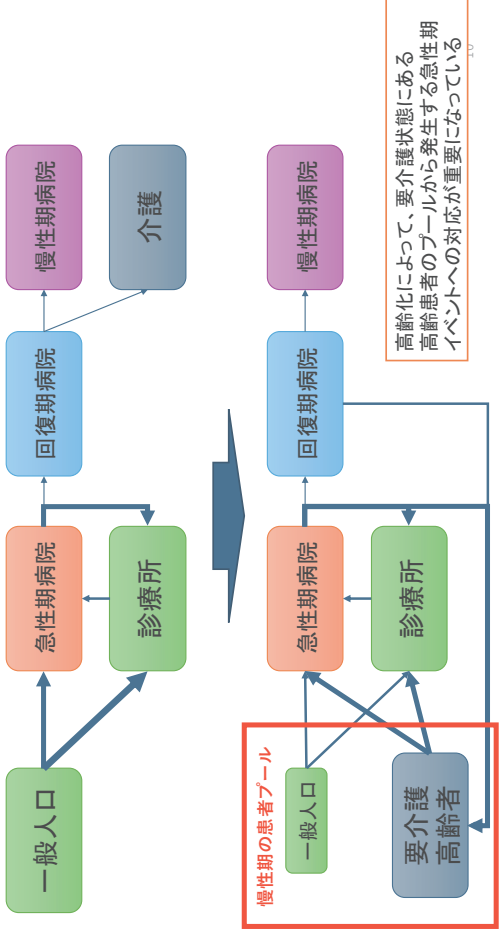
出典： 松田 (2019)

医療と介護の複合化を踏まえたサービス提供体制の在り方を検討すべきではないか？

これからさらに高齢化が進む地域社会においては・・・

- 急性期医療は相変わらず重要であり続ける。しかし、典型的な急性期の症例（初発のがん、急性心筋梗塞、初発の脳梗塞など）は減少する。
- 急性期の現場は、慢性期から繰り返し発生する急性期イベント（肺炎、骨折、心不全、尿路感染症、再発脳梗塞など）への対応を求められるようになる。
- 慢性期の医療・介護の役割が重要になる。また、そうした慢性期の場における予防（口腔ケア、栄養ケア、筋力や心肺機能向上のためのリハビリテーションなど）が重要になる。
- 医療と介護との連携が重要になる（→行政の関与が不可欠）。

患者の流れが変わった！



「変化はコントロールできない。できることは、その先頭にたつことだけである。」

「人口変化は確実な未来である」

ピーター・ドラッカー

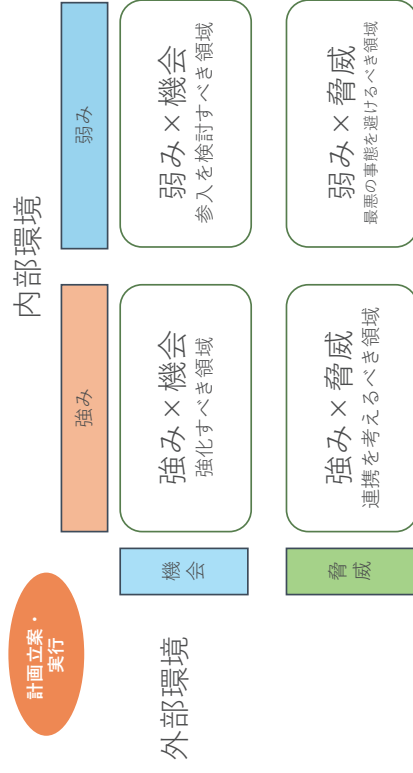
「入院の前後には患者の生活がある。
その生活に医療者は配慮することを求め
られている。そして、経営面から考えれ
ば、それはあらたな社会サービスの創造
につながる」

神野正博 （董仙会 恵寿総合病院 理事長）

SWOT分析で考えてみる
(地域レベル・施設レベル)



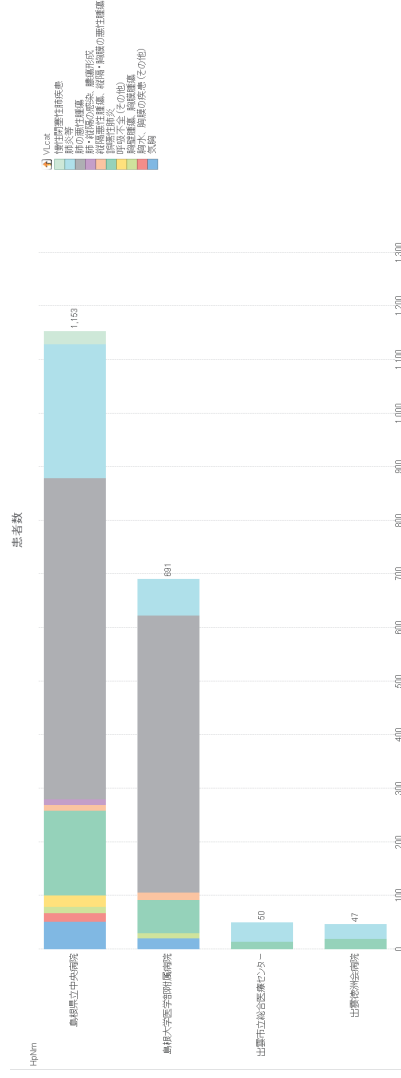
SWOT分析で考えてみる
(地域レベル・施設レベル)



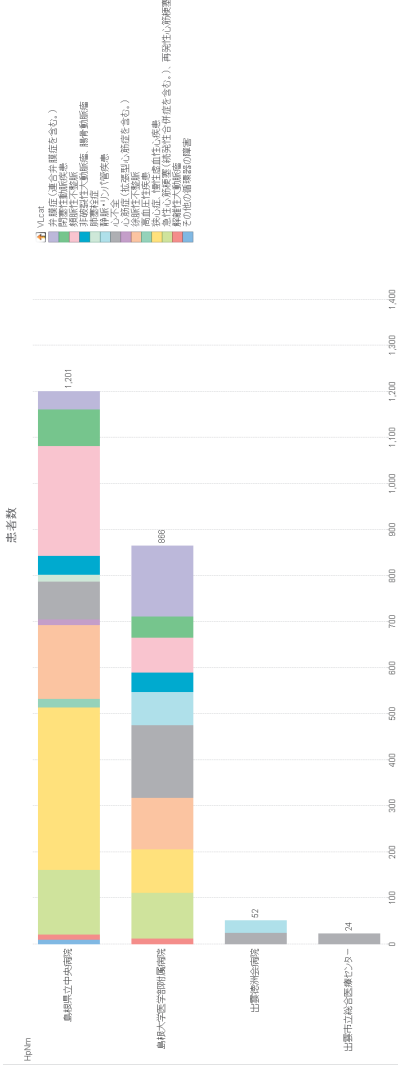
SWOT分析のためのデータは十分ある

- DPC公開データ: 内部環境分析、外部環境分析
- 病床機能報告: 内部環境分析、外部環境分析
- Standardized Claim Ratio (SCR): 外部環境分析
- AJAPA: 外部環境分析
- Newcarest: 外部環境分析

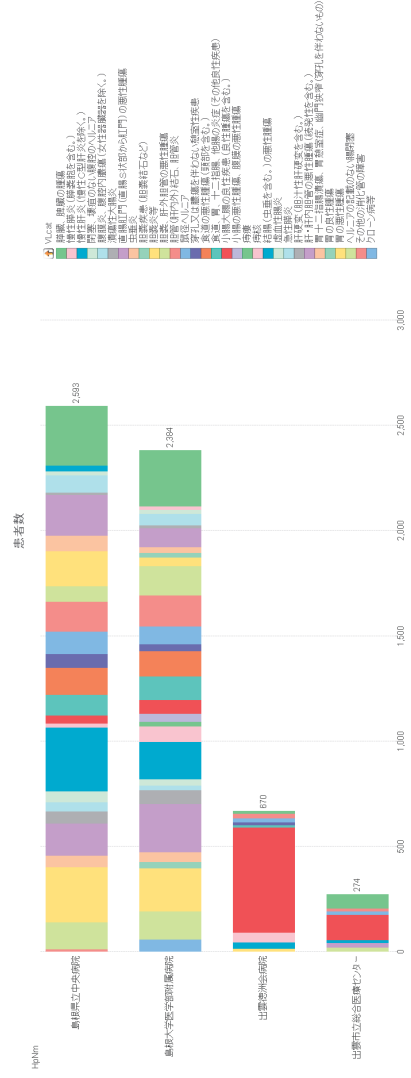
急性期の状況をDPCデータで確認する
(全入院MDC04詳細・DPC6 2020年度)



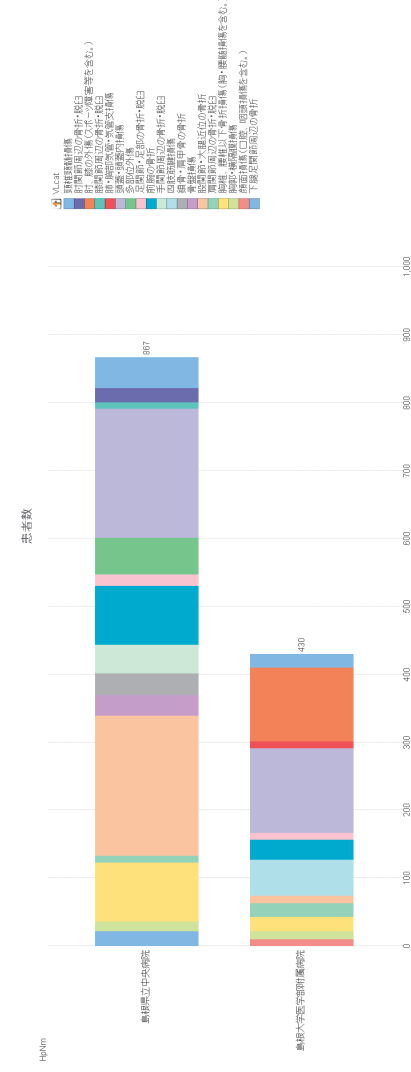
急性期の状況をDPCデータで確認する
(全入院 MDC05詳細・DPC5 2020年度)



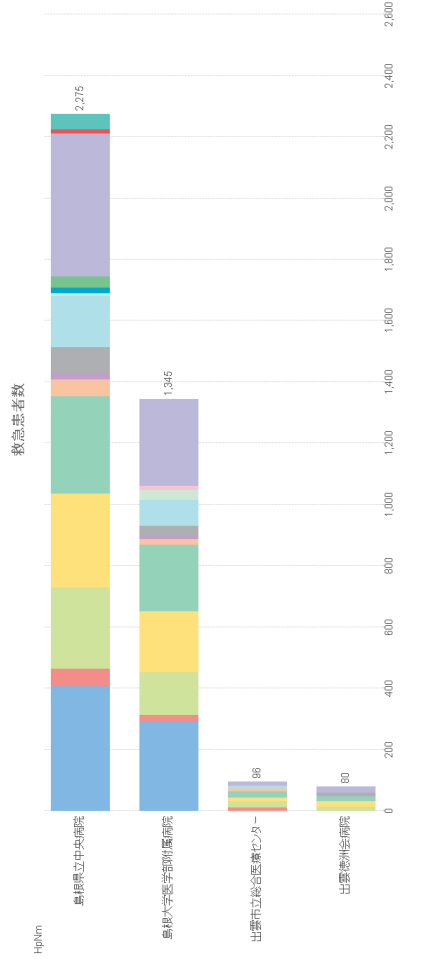
急性期の状況をDPCデータで確認する
(全入院MDC06詳細・DPC6 2020年度)



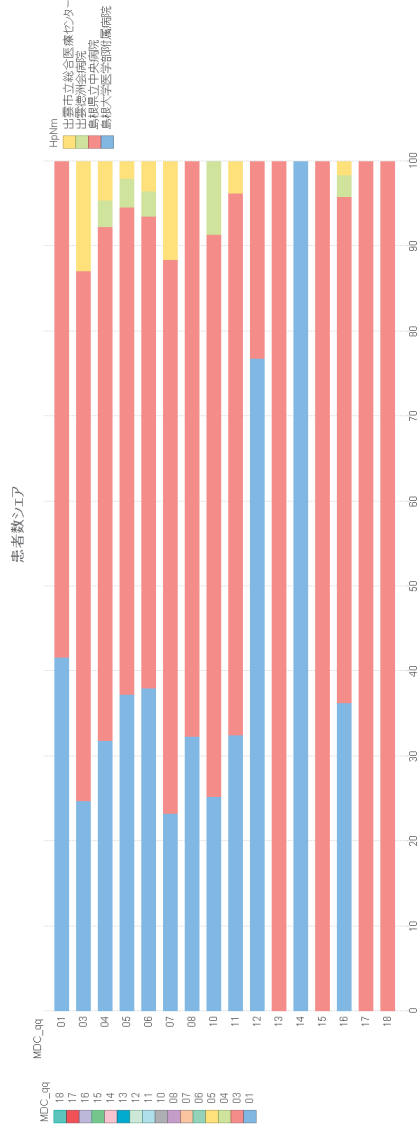
急性期の状況をDPCデータで確認する
(全入院MDC16詳細・DPC6 2020年度)



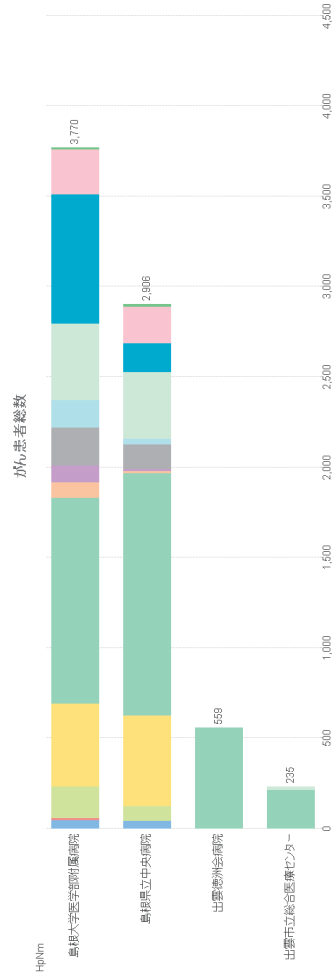
急性期の状況をDPCデータで確認する (救急搬送による入院 2020年度)



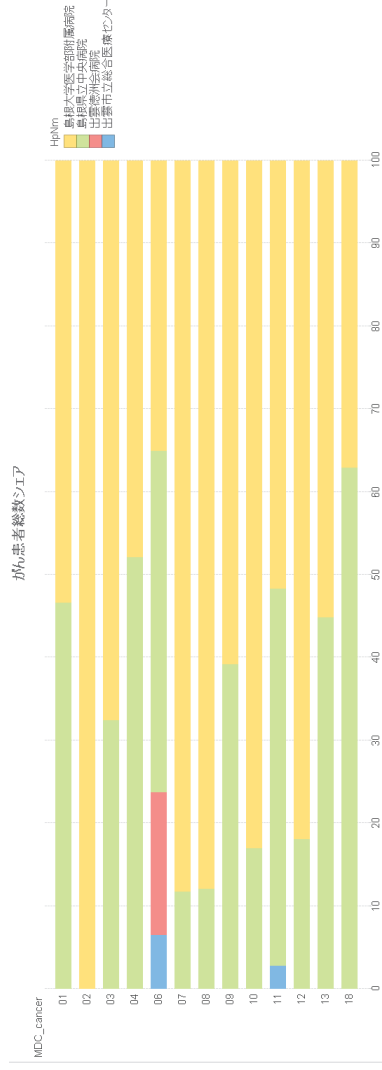
急性期の状況をDPCデータで確認する (救急搬送による入院 2020年度シェア)



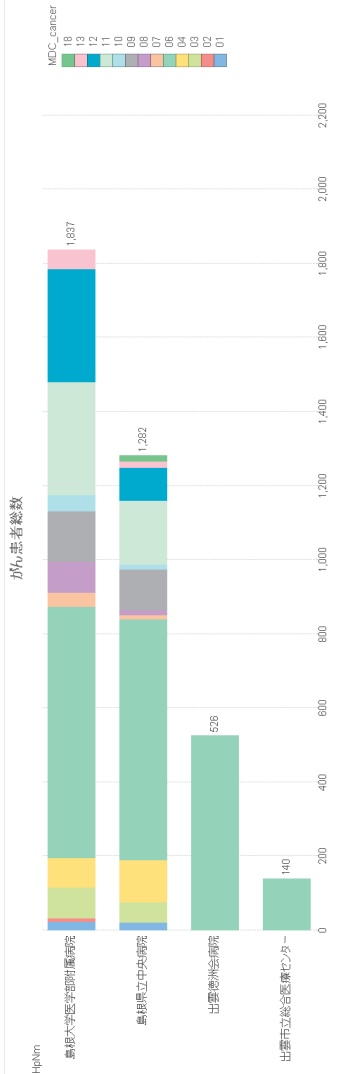
急性期の状況をDPCデータで確認する (がん入院全体 2020年度)



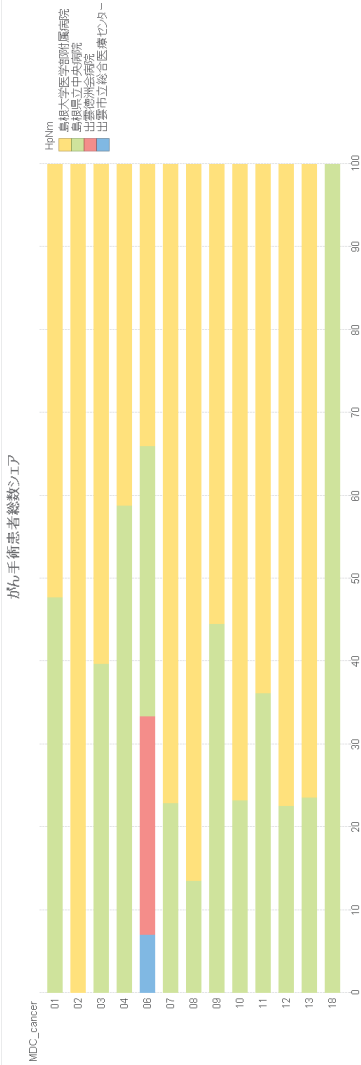
急性期の状況をDPCデータで確認する (がん入院全体MDC別シェア 2020年度)



急性期の状況をDPCデータで確認する
(がん手術入院全体 2020年度)



急性期の状況をDPCデータで確認する
(がん手術入院全体MDC別シェア 2020年度)



AJAPAを用いた将来予測
(外部環境分析)

All Japan Areal Population-change Analyses; AJAPA

地域別人口変化分析ツール; あじやは

Ver. 5.0.16/02/11

© 2012-2018 産業医科大学公衆衛生学教室HP

使用方法

Step 1: 分析対象とする都道府県を選択します。

19山梨県

Step 2: 分析対象とする市町村 (区は東京23区のみ) もしくは二次医療圏を選択し、検索ボタンをクリックします。

市町村人口変化分析 (クリックしてリストから選択)

19209北杜市

確定

二次医療圏人口変化分析 (クリックしてリストから選択)

1901中北

確定

Step 3: 選択した市町村もしくは二次医療圏の情報を分析画面に反映させます。(画面は切り替わります)。

選択した市町村の分析を開始

選択した二次医療圏の分析を開始

Step 4: 分析結果を表示します。

市町村分析結果印刷画面を表示します

二次医療圏分析結果印刷画面を表示します

人口推計の結果 (出雲医療圏)

32島根県 3203出雲 総人口の推移



出雲医療圏における高齢者入院医療の状況を
DPC研究班データで詳細に見てみる（R2、75歳以上）

名称	症例数	%	累積%	平均年齢	女性割合	ALOS	救急車に よる搬送 割合	死亡退院 割合	入院時稼 食費下増 割合	退院時稼 食費下増 割合	入院時稼 管栄養有 割合	退院時稼 管栄養有 割合	入院時低 栄養有割 合	退院時低 栄養有割 合	介護施設 福祉施設 からの入 院割合
全体	4,367			84.1	49.6	16.7	31.4	6.4	4.8	4.7	0.2	0.5	17.5	17.7	12.6
胃腸又は胆路の感染症	241	5.5	5.5	86.3	59.8	12.9	39.0	4.1	7.9	7.1	0.4	0.0	34.0	34.9	29.9
胆膵部・大腸近位の骨折	209	4.8	10.3	88.0	80.4	34.4	58.4	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	7.7	4.3	27.3
狭心症、慢性虚血性心疾患	183	4.2	14.5	81.7	31.1	7.0	9.3	0.5	1.1	1.1	0.0	0.0	9.8	9.3	0.5
脳梗塞	173	4.0	18.5	84.7	51.4	25.7	60.1	6.9	4.6	5.8	0.0	0.0	9.2	8.1	10.4
脳神経性肺炎	133	3.0	21.5	87.6	41.4	19.9	58.6	20.1	38.3	36.8	0.0	0.7	55.2	54.9	45.9
肺炎等	128	2.9	24.4	86.0	37.5	14.6	35.9	9.4	7.0	7.0	0.0	0.0	39.1	35.2	21.1
胆の悪性腫瘍	118	2.7	27.1	81.6	37.3	8.4	4.2	5.1	0.8	0.8	0.0	0.0	3.4	2.5	0.0
悪性性不整脈	111	2.5	29.7	82.4	56.8	9.3	14.4	3.0	0.9	0.9	0.0	0.0	18.9	18.0	3.6
心不全	106	2.4	32.1	86.4	54.7	19.8	37.7	16.0	4.7	6.6	0.0	0.0	34.0	38.7	15.1
胃の悪性腫瘍	96	2.2	34.3	80.6	45.8	13.7	6.3	4.2	1.0	0.0	0.0	3.1	32.3	35.4	4.2
肝・胆内臓の悪性腫瘍（総括性を含む。）	87	2.0	36.3	81.5	27.6	10.6	5.7	8.0	0.0	0.0	0.0	1.1	5.7	6.9	0.0
胆管（肝内外）結石、胆管炎	84	1.9	38.2	86.6	39.3	14.6	23.8	2.4	2.4	2.4	0.0	1.2	14.3	16.7	16.7
胆嚢・胆嚢内腫瘍	81	1.9	40.1	86.4	43.2	13.1	65.4	3.7	8.6	8.6	0.0	0.0	14.8	16.0	7.4
慢性腎炎急性増悪・慢性腎不全	81	1.9	41.9	83.0	49.4	14.7	21.0	7.4	6.2	4.9	0.0	0.0	11.1	11.1	14.8
肺性、肺性以下骨折損傷（胸・腰臓損傷を含む。）	79	1.8	43.7	86.0	68.4	30.7	34.2	1.3	0.0	0.0	0.0	1.3	8.9	7.6	7.6
慢性腎不全増悪・慢性腎不全	79	1.8	45.5	85.3	54.4	8.4	36.7	20.3	2.5	2.5	0.0	0.0	16.5	15.2	16.5
肺性、肺性以下骨折損傷（胸・腰臓損傷を含む。）	73	1.7	47.2	81.6	52.1	15.1	6.8	5.5	1.4	1.4	0.0	0.0	24.7	32.9	0.0
脳腫瘍（脳腫を含む。）の悪性腫瘍	72	1.6	48.9	82.9	50.0	9.8	2.8	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7	11.1	1.4
非ホジキンリンパ腫	64	1.5	50.3	84.5	46.9	21.8	76.6	20.3	6.3	9.4	0.0	0.0	26.6	29.7	4.7
急性心筋梗塞（総括性合併症を含む。）・再発性心筋梗															

出雲医療圏における高齢者入院医療の状況を
DPC研究班データで詳細に見てみる（R2、75歳以上）

名称	症例数	認知症有 割合	手術有割 合	併存症	続病症	入院時B	退院時B	CCI	要介護 介助者割 合	要介護 割合	NST	運転距離 期待値平 均	運転時間 期待値平 均	入退院支 援割算	退院時共 同退院	退院時リ ハビリ テーション 継続率
全体	4,367	45.8	38.2	3.2	1.5	50.7	64.5	1.3	46.0	36.1	1.3	14.1	41.0	50.6	1.3	13.0
胃腸又は胆路の感染症	241	70.5	7.5	4.4	1.5	25.9	44.0	1.3	70.1	62.7	1.1	19.2	56.8	33.3	0.3	8.8
胆膵部・大腸近位の骨折	209	75.6	89.0	2.6	1.2	14.8	36.2	1.1	67.5	57.4	0.0	13.2	39.5	8.0	0.0	9.3
狭心症、慢性虚血性心疾患	183	23.5	37.7	3.2	1.2	78.8	92.8	1.3	24.6	13.1	2.2	9.5	29.9	74.4	2.7	14.9
脳梗塞	173	57.8	19.7	2.4	1.8	25.4	42.2	0.9	47.4	38.9	1.2	11.5	33.5	62.4	2.5	26.3
脳神経性肺炎	133	88.8	5.3	4.1	1.4	15.3	20.0	1.1	93.3	84.3	2.7	13.5	36.8	88.9	0.9	12.2
肺炎等	128	64.1	1.6	4.2	1.7	40.9	58.4	1.5	61.7	50.0	2.0	13.9	39.2	75.4	0.8	24.3
胆の悪性腫瘍	118	28.0	19.5	2.6	1.4	90.1	89.4	2.3	20.3	8.5	3.6	11.1	31.8	66.0	2.3	17.8
悪性性不整脈	111	24.3	65.8	3.4	1.4	75.4	85.7	1.1	24.3	18.0	0.0	18.3	49.0	30.8	0.5	5.4
心不全	106	54.7	5.7	3.6	2.1	32.6	53.9	1.0	60.4	50.9	0.7	15.1	42.5	42.6	1.8	6.7
胃の悪性腫瘍	96	9.4	69.8	3.0	1.3	81.8	85.4	2.2	18.8	13.5	1.8	10.8	30.5	62.6	1.5	18.9
肝・胆内臓の悪性腫瘍（総括性を含む。）	87	16.1	77.0	2.7	1.1	88.3	87.1	1.6	26.4	17.2	0.6	15.4	44.7	42.9	1.8	11.2
胆管（肝内外）結石、胆管炎	84	44.0	64.3	3.6	1.9	50.7	65.2	2.0	59.5	50.0	2.3	11.6	32.7	82.2	0.3	19.1
胆嚢・胆嚢内腫瘍	81	72.8	71.6	2.1	1.0	30.1	55.2	0.5	50.6	42.0	0.5	15.0	41.9	18.5	1.2	3.0
慢性腎炎急性増悪・慢性腎不全	81	49.4	23.5	3.9	2.8	52.2	68.0	1.4	50.6	37.0	0.2	12.2	35.4	54.5	0.9	5.9
肺性、肺性以下骨折損傷（胸・腰臓損傷を含む。）	79	60.8	19.0	3.1	1.0	26.0	52.1	1.2	63.3	41.8	0.2	16.0	47.0	44.5	1.5	9.5
慢性腎不全増悪・慢性腎不全	79	36.7	69.6	3.2	1.7	47.4	65.9	1.3	40.5	27.8	0.5	15.0	43.2	55.0	1.8	10.7
脳腫瘍（脳腫を含む。）の悪性腫瘍	73	21.9	71.2	3.0	1.0	83.3	85.2	2.6	23.3	15.1	0.0	18.8	51.7	51.6	2.0	3.6
非ホジキンリンパ腫	72	19.4	12.5	4.1	1.4	91.3	85.8	1.3	30.6	6.9	0.0	12.1	36.1	7.4	0.0	0.9
急性心筋梗塞（総括性合併症を含む。）・再発性心筋	64	53.1	71.9	3.7	2.4	5.0	59.3	1.3	39.1	28.1	0.2	13.1	40.5	44.8	1.4	5.3

出雲医療圏における高齢者入院医療の状況を
DPC研究班データで詳細に見てみる（R2、75歳以上、施設から）

演者のこれまでの分析でわかっていること

症例数	%	累積%	平均年齢	女性割合	ALOS	救急車に よる搬送 割合	死亡退院 割合	入院時稼 食費下増 割合	退院時稼 食費下増 割合	入院時稼 管栄養有 割合	退院時稼 管栄養有 割合	入院時低 栄養有割 合	退院時低 栄養有割 合
547			88.7	65.6	18.9	52.7	13.7	15.7	15.5	0.0	0.9	34.4	33.6
胃腸又は胆路の感染症	72	13.2	13.2	63.9	13.0	47.2	4.2	5.6	12.5	0.0	0.0	47.2	48.6
脳神経性肺炎	61	11.2	24.3	88.1	50.8	16.0	73.8	26.2	49.2	0.0	1.6	65.6	67.2
胆膵部・大腸近位の骨折	57	10.4	34.7	89.9	82.5	31.0	43.9	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	1.8
肺炎等	27	4.9	39.7	87.7	44.4	17.5	40.7	25.9	11.1	11.1	0.0	51.9	48.1
脳梗塞	18	3.3	43.0	90.8	77.8	21.2	83.3	11.1	5.6	11.1	0.0	11.1	22.2
心不全	16	2.9	45.9	91.8	75.0	22.5	62.5	31.3	18.8	0.0	0.0	42.8	56.3
てんかん	14	2.6	48.4	86.9	71.4	14.1	78.6	7.1	14.3	0.0	0.0	7.1	14.3
胆管（肝内外）結石、胆管炎	14	2.6	51.0	89.5	50.0	22.9	21.4	7.1	7.1	0.0	0.0	28.6	28.6
徐脈性不整脈	13	2.4	53.4	92.8	53.8	4.8	76.9	53.8	0.0	0.0	0.0	15.4	15.4

- 高齢者の低栄養は、入院時・入院後の肺炎の併存及び続発のリスクを高める。
- 低栄養の高齢者は、退院時死亡の確率を高める。
- 低栄養の高齢者は入院期間中のBarthel IndexでみたADLの改善率が悪い（あるいは悪化率が高い）
- 高齢者の20%程度（施設からの入院の場合は、40－50%程度）が入院時に低栄養がある。
- 低栄養で入院した高齢者のほとんどが低栄養のまま退院する。

出雲医療圏における高齢者入院医療の状況を
DPC研究班データで詳細に見てみる（R2、75歳以上）

要介護度	症例数	CCI	肺炎患者割合	脳梗塞患者割合	脳梗塞患者割合	心不全患者割合	脳血管障害患者割合	ICU	救急医療管理加算	NST	運転距離期待値平均	運転時間期待値平均	入退院差算	退院時住居	退院時ハビテーション指導料
	4,367	507	64.5	1.3	2.9	3.1	4.0	1.8	5.5	1.3	14.1	41.0	50.6	1.3	13.0
0.介護認定無し	2,236	70.0	84.9	1.3	2.0	0.3	3.9	2.1	2.9	0.8	15.9	45.7	40.8	0.5	11.7
1.要支援1	163	54.9	71.9	1.5	4.3	2.5	3.7	3.1	4.9	1.0	14.9	43.4	67.7	1.6	19.0
2.要支援2	270	47.8	65.1	1.2	3.0	3.0	2.6	1.9	3.7	1.0	11.8	36.2	67.9	1.6	19.2
3.要介護1	437	40.2	56.8	1.4	4.6	2.5	4.3	3.4	7.5	2.5	11.0	32.6	68.6	2.7	17.2
4.要介護2	452	27.3	42.3	1.5	3.1	5.5	4.9	3.5	8.2	1.3	7.5	32.4	68.6	3.1	15.9
5.要介護3	320	19.1	26.3	1.4	5.3	7.1	3.7	2.8	11.2	0.6	15.2	31.6	69.0	2.7	14.1
6.要介護4	224	7.9	12.4	1.2	4.0	12.5	4.0	4.5	4.9	0.4	10.7	30.8	66.9	2.8	12.4
7.要介護5	142	2.3	5.0	1.0	2.8	18.2	4.9	2.8	2.1	1.4	13.3	10.8	31.1	60.2	2.8
8.申請中	92	42.3	54.6	2.0	3.3	2.2	2.2	3.3	2.2	1.1	5.4	4.0	12.3	35.2	8.1
9.不明	31	44.7	54.5	0.8	3.2	0.0	6.5	9.7	9.7	0.0	16.5	38.5	30.5	0.8	7.9

救急搬送による入院の主な傷病数の
2016年と2035年の比較（男女別；75歳以上 全国データ）

	男性			女性		
	(1)2016年 患者数	(2)2035年 推計患者数	(2)/(1)	(1)2016年 患者数	(2)2035年 推計患者数	(2)/(1)
010060脳梗塞		40,036	1.56	29,839	45,772	1.53
040080肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	28,582	49,080	1.72	20,865	33,558	1.61
040081誤嚥性肺炎	29,067	52,787	1.82	24,334	40,798	1.68
050130心不全	20,250	34,990	1.73	26,967	44,147	1.64
050210徐脈性不整脈	13,287	21,942	1.65	13,988	21,710	1.55
110310腎臓または尿路の感染症	8,198	13,757	1.68	14,337	22,321	1.56
160100頭蓋・頭蓋内損傷	13,444	21,545	1.60			
160690胸椎・腰椎以下骨折損傷				11,422	16,827	1.47
160800股関節大腿近位骨折	10,507	18,442	1.76	40,132	63,839	1.59

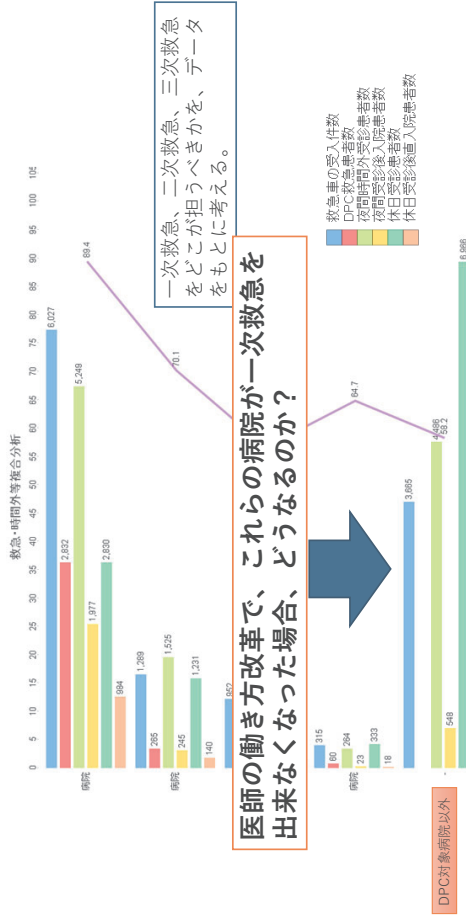
出典： Matsuda S et al （投稿中）

2035年の性年齢階級別救急車搬送
による入院患者数の予測（全国データ）

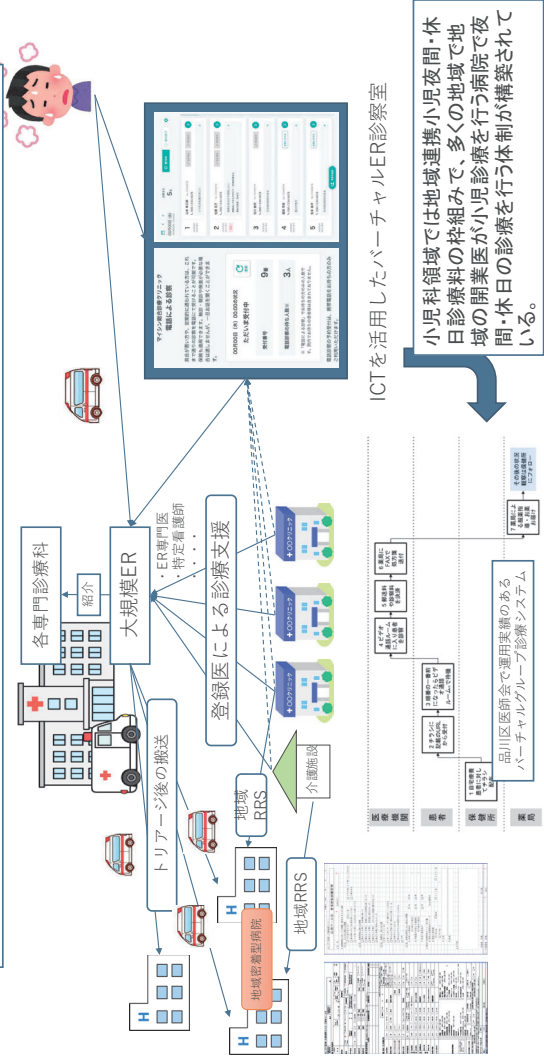
	(1)2015年人口 (千人)		(2)2035年人口 (千人)		(3)=(2)/(1)比		(4)2016年患者数		(5)2035年予測患者数 (3)×(4)		患者数の増加 (5)/(4)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0-4歳	2,561	2,445	2,045	1,944	0.80	0.80	24,617	18,481	19,657	14,694	0.80	0.80
5-9歳	2,725	2,594	2,123	2,020	0.78	0.78	6,601	4,187	5,143	3,261	0.78	0.78
10-19歳	5,991	5,683	4,663	4,441	0.78	0.78	14,603	9,482	11,366	7,410	0.78	0.78
20-39歳	14,474	13,962	11,678	11,137	0.81	0.80	40,463	49,326	32,647	39,346	0.81	0.80
40-59歳	17,223	17,015	14,147	13,845	0.82	0.81	104,770	61,315	86,058	49,892	0.82	0.81
60-74歳	12,558	13,540	12,023	12,551	0.96	0.93	207,437	118,939	198,600	110,251	0.96	0.93
75-84歳	4,832	6,548	5,599	6,980	1.16	1.07	210,829	185,965	244,295	198,234	1.16	1.07
85歳～	1,477	3,465	3,443	6,574	2.33	1.90	140,826	228,863	328,276	434,212	2.33	1.90
合計	61,841	65,252	55,721	59,492	0.90	0.91	750,146	676,558	926,041	857,299	1.23	1.27
出典： 人口については国立社会保障・人口問題研究所の日本の将来推計人口（平成29年推計） http://www.jpss.go.jp/dp/zenkoku/17/zenkoku2017/pp-zenkoku2017.asp												

出典： Matsuda S et al （投稿中）

DPCデータと病床機能報告の組み合わせによる救急医療の現状分析（ある医療圏）



日本の救急医療在り方（病院 - かかりつけ医協同モデル）私案



一次救急のバツファが大きくなくと、地域の救急医療体制は破綻するのではないか？

島根県の医療圏別SCR(令和元(2019)年度診療分)

二次医療圏	初再入院 _2	一般診療 入院基本 料等_1	療養病棟 入院基本 料_1	有床診療 所入院基本 料_1	回復期リ ハビリ テーション 病棟入 院料_1	地域包括 ケア入院 医療管理 料_1	緊急往診 加算等_2	在宅患者 訪問診療 料等_2	救急搬送 診療料	看取り加 算在宅患者 訪問診療 療科往診 料	訪問看護 指示料_2	介護施設 SCR*	サ高住 SCR*	SS SCR*	訪問看護 SCR*	通所サ ビスSCR*	訪問介護 SCR*	
3201松江	99.1	109.7	61.5	60.4	142.3	144.5	101.2	63.7	104.0	63.1	43.3	140.3	152.1	101.3	114.4	143.7	123.5	133.7
3202雲南	56.6	79.3	74.6	0.0	0.0	135.9	128.3	142.4	87.2	171.4	32.9	80.6	NA	NA	NA	NA	NA	NA
3203出雲	112.6	91.8	159.7	140.4	133.7	0.0	200.9	199.2	120.5	461.1	97.7	147.2	114.4	89.9	119.6	66.6	101.0	87.2
3204大田	75.2	62.2	0.0	80.1	0.0	231.2	143.9	181.9	116.5	324.4	68.7	86.9	172.3	58.4	157.7	66.1	145.6	47.9
3205浜田	86.3	85.3	158.9	123.9	0.0	0.0	131.1	200.7	74.7	142.9	86.1	90.5	150.6	0.0	112.0	116.7	96.6	104.1
3206益田	93.9	111.9	0.0	0.0	0.0	175.0	87.1	75.2	96.9	72.6	60.5	96.0	138.5	50.2	125.2	34.3	87.0	42.1
3207岡谷	38.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.9	121.7	52.4	196.3	108.0	21.6	166.2	0.0	211.6	20.3	87.3	88.4

_1: 入院、_2: 外来、NA: データなし

*: 当該医療圏の65歳以上人口1万人当たりの提供量を全国平均で割って指数化

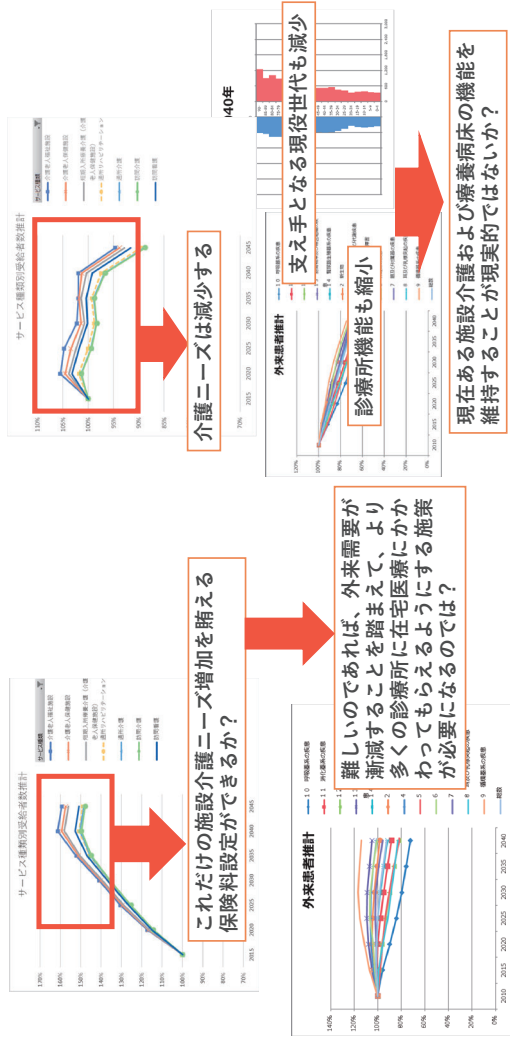
慢性期とは？

慢性期 = 入院（主に療養病床） + 介護施設 + 在宅

地域医療計画及び介護保険事業計画では
各地域の医療資源、介護資源、地理的条件の制約を考えながら
上記3要素のベストミックスを考えられる。

松江市 大田市

検討の基本的視点



出雲医療圏の地区診断

- 2015年以降人口は減少しているが、高齢化の進行により入院需要は2030年まで増加し、その後徐々に低下。ただし、増加・高止まりするのは急性期後の入院需要
- 入院需要増加の中心は肺炎、心不全、骨折、脳血管障害。
- 慢性期の医療・介護サービスが必要とする後期高齢者の絶対数が増加する。
- 医療提供体制をSCRでみると一般病棟と地域包括ケア病棟を除いて入院医療は全国よりも提供量が多い。外来機能は全国より若干高い。施設介護、訪問診療、ショートステイの提供量は多い。訪問看護、訪問介護の提供量は少ない。
- 介護サービス、特に施設サービスの必要量が増加する。
- 高度急性期、急性期の入院機能は飽和している。

出雲医療圏の地区診断結果から考える課題

- 急性期の機能を維持するために、働き方改革にどのように対応するのか？施設間の機能分化と連携が必要ではないか？特に、島根県立中央病院と島根大学医学部付属病院の機能分担をどう考えるか？また、高度急性期、急性期については全体としてダウンサイジングが必要ではないか。
- 今後、急増する慢性期の医療・介護サービスを必要とする高齢患者にどのように対応するのか？
 - 療養病床を維持することは可能か？
 - 慢性期から発生する急性期への対応（肺炎、骨折、心不全、尿路感染症、再梗塞、...）
 - 急増する介護需要の受け皿は？介護施設は増やせるのか、増やせないとすれば、その代替策としてどのようなものが考えられるのか？在宅医療の提供量は増やせるのか？

